

校長室から (NO. 19)

「祭り」と継承

学校には、すでに夏祭りに関する案内がいくつも届いています。祭りといっても賑わいをもたらす新しいタイプの祭りから、季節の巡りと自然の恵みに向けた祈りや感謝を表す祭りまで、様々な祭りがあります。

ここ、放生津においては、なんといっても、獅子舞と曳山は、特別な存在です。



1か月も前のことですが、本校にも、隣接する地区の獅子舞青年団がやってきました。全校で鑑賞しました。本校児童が、花笠や赤い衣装を身にまとい、かわいいキリコを演じる姿に、こちらまで心躍りました。

次に、地元の青年団の薦めに背中を押された男児が、飛び入りで天狗の舞を披露することになりました。照れくさそうに薙刀を手にし、少し困ったようにしながら獅子の前に立ちました。

その時です。なんということでしょう！

面もなし、かぶり物もなし、衣装もなしですが、男児は、確かに、獅子との戦いを繰り広げる天狗になっていました。年期が入れば、もちろん年相応の渋い舞ができるのですが、10歳程度の男児の、獅子との絶妙な駆け引き、地を這うような腰の低さ、足先指先まで緊張感ある動きに感動しました。

物心ついた頃から、見る・まねるを繰り返してきた所作には、力強さと美しさがありました。ここに、伝統芸能の価値、継承とは何かを言葉を超えて感じることができました。

代々受け継がれてきた祭りを大切に守り、次世代へと伝えていく子供たちが育っているのです。

